



クローズアップ
CLOSE UP

急な坂道もすいすいと

赤城自然塾で高性能電動アシスト付きスポーツ自転車、e-Bikeのレンタルを実施中。夏休み期間の8月は、家族連れなど64人がレンタル。こぐのに力がいらないため、坂道の多い赤城山でも会話を楽しみながら散策していました。e-Bikeは年間をとおして借りられます。



広瀬川で新たな日常を

8月16日から9月5日までの週末に広瀬川河畔で開催された「広瀬川nightテラス」。キッチンカーが出店したこのイベントに合わせて、市では河畔の活用方法を探る社会実験としてカウンターや人工芝などを試験的に設置。利用者にアンケート調査し、今後に生かしていきます。



便利な交通実現目指す

9月4日、前橋版MaaS環境構築に向けた新モビリティサービス推進協議会の設立記者発表を開催。産官学が連携し、5Gを活用した自動運転バスの運行や顔認証を使ったキャッシュレス決済などの実証実験を行います。実施期間は12月中旬から来年2月末を予定しています。

県内の各飲食店で9月30日(水)まで開催しているかき氷FES2020。須田さんは製造業で代表を務めながら、異業種を応援する同イベントを計画した。

「交流のある飲食業の人から相談を受け、医療従事者へのお弁当の配達などを手伝ったことがきっかけです。他にも飲食業を応援する方法がないかと考え、かき氷の案が。東京の有名店でも使われているかき氷機を市内で販売されていることもあり、かき氷を地元の文化にできるかもしれないと思いました」

参加店はかき氷をもともと出していた店だけではない。

「かき氷が、お店に来て他の料理を食べてもらうきっかけになったらいいですね」

今後の展開も広がっている。「県内の食品工場で出た口スを生かした、当地へ来ないと食べられないかき氷や食べると募金につながるSDGs的な仕組み作りも考えています」

実行委員会は印刷業やサービスマン、鋼材業などさまざまな業種の人で構成されている。「それぞれができることで協力し合っています。異業種だからこそ公平な気持ちで応援できるんです」

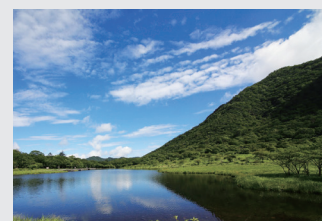
業種は違えど、同じ志を持つ人と手を取り合い、新しい可能性を広げている。

皆さんは赤城山へ行ったことはありませんか？私は大学卒業まで群馬で暮らし、小学生の頃は夏休みによく父親に連れられて大沼で釣りをして遊んでいました。大学卒業後は東京で仕事を経験し、現在は赤城自然塾で赤城山の観光地域づくりに取り組んでいます。

私の活動は主に赤城山の観光面でのサポートです。赤城山のイベントやサイクリングツアーなどの開催支援、赤城山の観光



AKAGI e-Bike



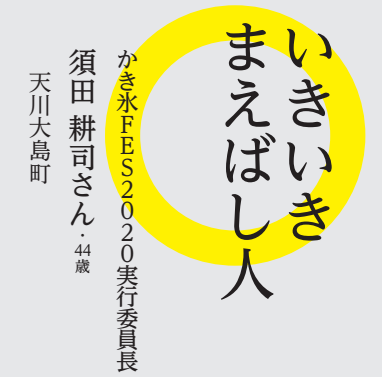
覚満淵



Akagi Trip
(赤城山プロモーションサイト)

ポータルサイトAkagitripの管理、SNSでの情報発信など多岐にわたります。これらの活動をやる中で、私は今まで知らなかった赤城山の魅力を多く知ることができました。四季で姿を変える赤城の山々やさまざまな動植物を間近で観察できる覚満淵、関東平野を見渡す眺望の鳥居峠など、群馬に住んでいても知らなかった魅力です。

前橋に住んでいても赤城山についてあまり知らないという人を含め、多くの人に赤城山の魅力を伝えていけるよう活動に励んでいます。



かき氷FES2020についてはこちらから。



027・210・2189
図 観光振興課